

桜船会 だより

三菱電機大船地区定年退職者の会

第 37 号

発行日 2016.11.20

発行者 桜船会

発行責任者 木村允紀



▲秋のバス旅行・写真コンテストより 「上田城跡」西櫓 編集班撮影

会長就任のご挨拶
会長退任のご挨拶
第 24 回（平成 28 年度）桜船会総会
いきいきライフ：人間万事塞翁が馬
いきいきライフ：民謡会創立 40 周年の足跡
いきいきライフ：若すぎる新人です

行事報告：趣味の作品展示会報告
行事報告：秋のバス旅行報告
事務局だより・編集後記

木村允紀
萩原大義
森田 茂
今飯田哲
三浦鉄郎
富長智徳
馬場景一
上原武雄
事務局

会長就任のご挨拶

桜船会 会長

木村允紀

5月に開催されました平成28年度総会にて選出され、会長を務めさせて頂くことになりました。よろしくお願ひ致します。

平成17年に入会し、平成22年度より、編集班員、事務局長を務めさせていただきました。

萩原前会長には、長年、幹事、副会長、事務局長、会長を務めていただき、誠に有難うございました。

経験の浅い私が引き継ぐことになりましたが、萩原様には、今後も顧問として役員一同への助言を頂くことになりましたので、よろしくお願ひ致します。

さて、桜船会も設立以来、24年が経過し、歴代の会長、幹事のご尽力で発展してきましたが、ここ数年来、課題が発生してきました。

まず、会員の高齢化による会員数の減少が顕著になってきました。4年前の創立25周年総会時には、会員数315名でしたが、今年度総会時点では264名となりました。つきましては、お知り合いの方々で入会されていない方へのご勧誘をぜひともお願ひいたします。

次に、設立時点より労働組合から支援頂いており

ます助成金基金の減少への対応です。

昨年来、労働組合と検討を重ね、今年度より助成金を漸減していく、できるだけ長く桜船会の活動を維持していくようにしました。この件につきましては、今年度総会にて議題として、ご提案し承認されましたが、今後、会運営と行事企画の効率化を役員一同意識して臨んでいくつもりです。

少々、話題がネガティブになりましたが、皆様のご協力により、これらの課題を乗り越え、会員の皆様が楽しめる、諸行事の活発化、交流の場としての桜船会を運営していきたいと思います。

また、設立以来、たいへん温かいご理解とご支援を頂いてきました会社と労働組合の皆様方に改めて会員の皆様ともども、深く感謝し、お礼を申し上げます。今後とも引き続きまして大変お世話をいただくことになるかと思いますが、よろしくお願ひ致します。



会長退任のご挨拶

桜船会 顧問

萩原大義

桜船会は、設立に当たりご尽力された方々により平成5年に産声を上げ、24年を迎えております。

その間、歴代役員の熱意ある活動により順調に発展してまいりました。

平成15年入会以来、幹事1年、副会長2年、事務局長6年、会長4年と会員、役員はじめ会社、労組の方々の温かいご支援のもと13年間無事務めさせていただきました。この間の桜船会活動は、会員の方々や、現役の方々との交流も出来、貴重な時間を過ごすことが出来ました。また、三菱電機の素晴らしい実感しながらの活動であったことを申し添えたいと思います。

13年間の活動を振り返ると、

- ・活動諸資料電子化、電子メール体制の導入、メーリングリストを活用し、役員間情報共有化等の電子環境の整備
- ・湘南ダイヤクラブ、MPC近隣OB会との定期的情報交換の開催

・創立20周年記念行事として、式典、祝賀会の実施、「桜船会だより」創立20周年記念号発行
・桜船会公式ホームページの開設による会員への情報の公開
・助成金の延命対応策の実施
・会員の「趣味の作品展示会」の開催
・入会勧誘用「入会案内しおり」の作成
・旅行・懇親会等事業内容の充実
・ハイキング、デジカメ同好会の立上げ等、役員、会員、会社および労組の方々の温かいご理解とご支援をいただきながら、桜船会の充実と発展を進めることができました。あらためて感謝申し上げます。今後は、顧問という立場で活動に参画させていただき、会の発展に微力ながら協力してまいりたいと思います。



木村允紀会長の新体制に対し、皆様の変わらぬご支援、ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

去る5月29日（日）情報総研大会議室において第24回総会が開催されました（出席125名、委任状92名）。

今回は初めての企画として総会開始前の時間に受付コーナーの周りで「趣味の作品展示会」を開催しました。9名の方が出展され、大盛況でした。

総会は司会が森田幹事で、物故会員への黙祷のあと、萩原会長の挨拶に始まり、続いて来賓を代表して中川路哲男情報技術総合研究所長殿よりご祝辞を頂戴し、あわせて会社の経営状況全般及び情報技術総合研究所での幅広い研究開発状況についてお話をいただきました。

増田大樹労組支部執行委員長、富田洋一リ本大船事務所長、山田直人鎌倉市議の各ご来賓からも、それぞれご祝辞を頂戴しました。

引き続いて、次の議題について担当役員よりそれぞれ報告および提案がなされ、出席会員の賛成多数により、いずれも承認されました。

- ・平成27年度活動報告・・・・・・富山幹事
- ・平成27年度会計報告・・・・・・伊藤会計
- ・平成27年度会計監査報告・・・丸屋会計監査
- ・会則改定・・・・・・・・木村事務局長
- ・平成28年度活動計画(案)・・・富山幹事
- ・平成28年度予算(案)・・・萩原会長、伊藤会計

今回は会長をはじめ3名の役付きの役員が退任することになり、役員会を補強する目的で会則を改定し「顧問」を置く事が承認されました。



会則改定内容説明

28年度役員について、大津留労組副執行委員長より次のとおり提案があり、出席会員の賛成多数により、承認されました。

会長	木村 允紀
副会長	市川 洋子
事務局長	森田 茂
幹事	富山 勝己、玉田 幸吉、桜井 貫智
	馬場 景一、沼田 孝治
顧問	萩原 大義
会計	伊藤 善貞
会計監査	丸屋 完

最後に木村新会長より28年度役員を代表して挨拶があり、新入会員の紹介を行って総会を終了しました。



萩原会長の挨拶

総会終了後、会場を食堂に移し懇親会を開催しました。懇親会には、総会の来賓の方々および湘南ダイヤクラブ（三菱電機鎌倉地区OB会）



とMPCクラブ（三菱プレシジョンOB会）の役員の方々にも参加いただき竹田俊幸さんの乾杯発声で始まりました。例年参加会員、初参加会員、何年振りかの参加会員それぞれが一堂に会し、昔を懐かしみ話に花を咲かせました。賑やかで楽しい一時が過ぎ、再会を約束して散会となりました。

私は、名古屋に生まれ、そこで大学まで過ごしたが、大学紛争が激しく、勉学不足を感じ、北大に進み、電動機の瞬時値解析で修士課程を終えました。札幌五輪の翌年で、白銀の世界と研究室でのジンギスカン鍋等が思い出です。



1974年三菱電機・稻沢製作所の昇降機研究部（エレ研）の技術部に配属されました。入社前には「マイコン関連」の仕事に携わる事を期待したが、入社後は当時、サイリスタによる一次電圧制御による振動トルクによる騒音問題があり、その課題解決が仕事になった。この問題への対処としては IEEE の状態変数解析の論文をベースに、MELCOM7000 でシミュレーションし、対策を提案し、解決することができた。

その後、エレベータ全体へのマイコンプロジェクトが開始され、従来の概念に染まっていない人という理由で人選がされ、私は群管理を担当した。

思いもかけない異動

片山社長当時、電子商品（VTR, CD, VD）強化のために、エレクトロニクス関連事業推進本部（エレ本）が設立され、1年間応研で書き込み光ディスクの開発、大船で CD のピックアップ調整、INS 本に異動して、MULTI16 用キャプテンアダプタの開発に従事した。その後、通シ研、情報総研へと異動して大きな仕事が訪れた。昨年早逝された村上役員技監のベクトル量子化理論により、NTT と KDD から TV 会議を受注し、一方の KDD の TV 会議システム INVITE64 を担当した。この最初の製品出荷時には、INS ネット接続時に通信遮断される不具合が発生し、困惑したが、当時の通シ研 M から「接続装置の専門技術者を出す。」という応援もあり、結果的に、接続装置側の「1」の連続パターンによる通信遮断」という設定解除により解決できた。

国際標準化コーデック

その後、TV 会議コーデックの世界標準が合意され、その相互接続試験が、KDD の研究所で行われ、私が取り纏めを担当し、その経験がその後の当社の建設省や各地域の防災システムへの PR 活動推進に役立った。

通電情報機部へ異動（2年間）

平成元年当時、新庁舎東京都防災システムが進行中で、当社は、防災画像システムを受注した。機器の設置余地がなく、前任者は縦長の収容架を提案していたが、引き継ぎ後目的を確認すると、関東大震災クラスの想定とわかり、急拠、横長案に変更した。都は、各自治体への設置面積仕様が変わるので困って、「その交渉は三菱の責任でやれ。」と言われた。幸い、通プラの熟練の交渉術で、切り抜けることができた。

SEC（五反田）、映情本への異動

情報総研に戻った後、すぐに、SEC へ異動となり、さらに映情本の設立とともに映情セに異動し赤坂パークビルに移った。SE 業務、営業活動を担当した後、ハイビジョン普及支援センター（HVC）へ出向を命じられた。理事長は当時の北岡社長（経団連副会長）である。業務は、通産省新映像産業室が推進する「3 次元ハイビジョンのフル動画 CG」の担当であった。

ここでは米国のマルチメディア事情を調査するように命じられ、著名な MIT のメディアラボのネグロポンテ教授との接見も可能と言われたが、英語が不得手のため断り、日本語講座の宮川繁教授（平塚出身）と接見・会食を共にした。宮川教授からは、実用的なマルチメディア教育として PC による漢字の筆順や平塚の七夕祭り文化等の紹介を受けた。また年度終わりに、2 億円の予算申請を行った時には、申請理由は「課題は何か。解決方法は効果があるか。なぜ国が必要があるか。」の 3 行くらいでよいと言われた。会社での起業費の申請よりも随分簡単だなど感じた。

情報総研へ異動

出向後、情報総研の符伝部に戻り、2 年間にわたり、国家予算約 8 千万円を獲得し、地上デジタル放送実験用コンテンツを制作し、コーデックの PR デモに役立てた。その後、技修・人開セに移り、技術部会や技師長会の活動に従事した。

振り返ってみて

全く想像もしていない多種多様な職場を体験したが、技術の先見性、事業化の見通し、人材活用能力にたけた、故・村上役員技監のもとで仕事ができたことで、充実した業務体験ができたと感謝しています。

民謡会を結成して 40 周年にあたり、その足跡をアマイな記憶に頼って、振り返ってみます。

民謡活動を始めたきっかけ

船電に入社した 1964 年頃は高度成長期の真っただ中で、製造ラインのほとんどが人手による流れ作業で、管球工作部門の大多数の人が寮生でした。

当時、所内には余暇を活用するクラブがいくつもあったが、私はその中の「船電民謡クラブ」からの勧誘を受け、会員になりました。このクラブは外部団体との交流も盛んで、特に国鉄大船工場の民謡クラブとは親密で、合同の温習会を度々行っていた。

あるときメンバーの船山さんに連れられて横浜へ尺八を買いに行ったとき、買い上げのお礼として民謡ショーの入場券を頂いた。どんな催し物なのか行ってみようと軽い気持ちで横浜市民ホールへ足をはこんでみた。初めてプロの芸を生で見聞きした時の感動は格別だったが、まさかその後自分がその仲間になることなどは、当時、毛頭想像できなかった。



昭和 42 年ころの民謡部メンバー

入門

ある時、民謡活動で知り合った仲間の一人に誘われて、あまり乗り気でないまま、ある先生の門を叩いたが、面接の先生を見て驚いた。その方は以前、私が横浜市民センターでその演奏に感動を受けた、あの日本民謡協会の看板スターである尺八民謡・矢下流家元・矢下勇、その人だったのである。

入門は昭和 45 年 10 月。最初の頃はあまりにも、技量が違いすぎるため「着いていける筈がない」と思

いながらも、逃げ出す勇気もなかった。

その後、数度の伝位試験を経過して名取になり、少しばかりの自信と尺八に対する欲望も湧いてきた。

昭和 50 年 8 月に師範の免許状を受領。「尺八民謡矢下流師範：矢下勇州」として弟子を持つことが許された。

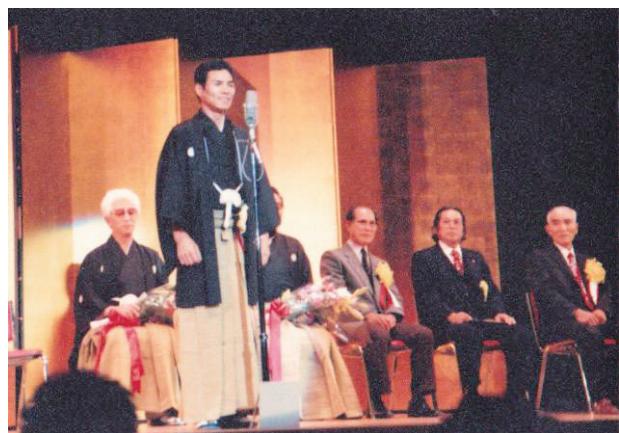
その後有声会員として家元に連れられ巡った、主な演奏会（修行）には下記のものがある。

- ・第 1 回有声会民謡発表会 横浜音楽堂 S49 年 3 月
- ・浜田喜一リサイタル応援 歌舞伎座 S50 年頃
- ・高橋裕次郎の会創立 10 周年記念大会応援出演 浅草国際劇場（2 年後頃解体）S52 年 3 月 27 日
- ・矢下勇芸能生活 35 年リサイタル 渋谷公会堂 S53 年 4 月 2 日
- ・第 1 回国民文化祭「日本の民謡（うた）ごえ」 NHK ホール S61 年 11 月 24 日
- ・矢下勇芸能生活 50 周年記念チャリティショーアクション 江戸川文化センター H4 年 10 月 24 日
- ・恒例日本民謡フェスティバル NHK ホール H20 年 5 月

民謡会創立

昭和 51 年 8 月、仲間たちの力強い支援を受け、岩瀬公会堂において「勇州会」の発会式を行い、本格的に民謡会へ踏み出ことになった。

矢下流本部 勇声会 家元 矢下 勇
勇州会支部 会主 矢下勇州



勇州会 30 周年記念大会式典
(平成 18 年 9 月 10 日寒川町町民センター)

創立 40 周年の今年は旅行を兼ねたイベントを企画中です。

はじめまして。桜船会に新しく入会いたしました、富長と申します。よろしくお願ひいたします！

私は2015年3月15日付けで定年退職となり、三菱電機OBとなりました。1983年入社、ことしまだ57歳です！ということで、若すぎる桜船会新人として自己紹介させていただきます。

入社以来32年間ほとんど大船のID研でお世話になりました。途中2年半ほど稻電に異動していましたが、そこでもデザイン部門へ所属していたため三菱電機在職中はデザイン業務に携わることができ、とても幸せな社会人生活を送らせていただきました。

その間には桜船会木村会長には公私ともにお世話になり、その流れで57歳の若さでOB会であるこの桜船会に入会するはめに・・・

いえいえ、これは冗談です。私は組合活動も長くしておりましたので、そのからみからも入会させていただくことにいたしました。

定年退職といえばダイヤモンドプランですが、残念ながら娘の大学受験もあり旅行券を頂くことにし、6月に妻の両親と我が家の愛犬2匹と共に温泉に行きました。(娘は大学のクラブ旅行で同行でませんでしたが)ちょうど義母の喜寿のお祝いと愛犬と初めての宿泊旅行という事で少し奮発して部屋には露天風呂、中庭には犬用の温泉があるちょっとリッチなプチ旅行となりました。



桜船会の活動はなかなか参加することができませんが、ゆくゆくは旅行や犬好きの方や家庭菜園を趣味とされている方々との交流などを楽しみにしております。

現在の私は、定年前まで6年間出向していた三菱電機ビルテクノサービス(MELTEC)へ転籍し、現役バリバリで働いております。MELTECでもデザイン部門がありID研時代と変わらず、提案書やカタログ、リーフレット、たまに新サービスの開発などに携わっております。

定年退職で旅行に行かせてもらい、転籍先でもデザインの仕事をさせてもらい、「ニクイねえ！三菱電機」を日々実感しております。

ところで、MELTECはエレベーター・エスカレーターの保守会社だと思われていませんか？実はそれ以外にも、空調設備機器、ビル管理設備、監視カメラ・セキュリティ、照明設備などビルに関するあらゆることをビジネスとしています。

昇降機ビジネスと異なり、空調設備は小回りの利く地場の業者さんとの戦いでもあり、しかも、面白いものでMELTECも三菱電機と同様のDNAを有しております、技術力・はじめさが売りなので、コスト優先のお客様に売り込むのに苦労しているようです。

しかし、このDNAはトラブルが発生した時に一番の力を発揮しています。故障するとお客様は当然不満を持ちますが、MELTECが誠心誠意対応した後は逆にMELTECを気に入っていることがあります。

つまり故障が発生して初めてMELTECの良さがお客様に伝わるという何とも、良いんだか悪いんだか・・・悩ましい限りです。

デザイン部門ではこんなMELTECの良いところをお客様に伝え、理解していただき契約成立のお手伝いが少しでもできればとの思いで日々頑張っています。

OBの皆様の中でビルのオーナー様、マンションの理事会の役員や設備改修に関わっている方がいらっしゃいましたら、ぜひ一度MELTECにお声掛けいただきご相談していただけないでしょうか。

三菱電機ビルテクノサービス「ビルまるごと相談室」
全国共通フリーダイヤル 0120-0510-07
(0120-0510→まるごと、07→オーナー)
私ともどもMELTECもよろしくお願ひいたします！

趣味の作品展示会開催趣旨

桜船会会員の方々は長年にわたり多趣味をお持ちであり、この趣味を会員の皆様にお知らせする場はないかと考えておりました。

桜船会総会時には会員が多数出席されますので、趣味の作品展示会を行い多くの会員の皆様に楽しんでいただきたいと思い、企画させていただきました。

このような企画は初めてであり、今回出展をお願いする会員の方につきましては、近年発行された「桜船会だより」を参考にして決めさせていただき、出展のご依頼をいたしました。そして今回は、ご了解いただいた9名の方に出演していただきました。

出展者・展示品

出展者名	出展品目
安西良矩	青磁「中皿」、磁器「茶碗」
石井 茂	桧材立体木彫「十一面観音立像」
栗山時子	フランス刺繡
小泉登男	磁器「長辺」「ぐい呑み茶碗」
佐藤顯也	写真俳句 4号紙 額入
祖父江晴秋	水彩画 F8型 額入
前山紘一郎	写真 A4 額入
渡部勁二	色鉛筆画 額入「旅立ち」
佐藤菊男	写真 A3 額入「匠」



展示会終了後の皆様からのご意見

<会員の皆様より>

- ・作品展示を見て、皆プロ級の腕前でびっくりした。
- ・次回は、もっと多くの会員の作品を見てみたい。
- ・自分も、何か趣味の作品つくりをしたいと思った。

<出展の皆様より>

- ・出展して自信がついた。今後も頑張れそう。
- ・もっと多くの方々に出演していただきたい。
- ・もっと長期間できないか。将来的に検討願います。

今回の展示方法と、今後の作品展示会について

今回の展示場所は、情報総研研究棟大会議室前ロビーという本来の展示スペースでは無い為に、展示方法を検討しました。そして磁器・木彫・刺繡等はテーブル上に置いて展示し、絵画・写真等はホワイトボードの上部にS字フックを掛け、そのS字フックに吊るし展示させていただきました。

今後も同様な展示方法で行い、当面は桜船会総会時に行いたいと思っております。そして展示品の応募につきましては、事前に会員の皆様にご連絡したいと思っております。その節には、どうか積極的に応募してくださいますようお願い申し上げます。

また作品搬入搬出は大変であり、基本的には展示ご本人がご持参・お持帰りいただきたいと思います。

▼▼展示会場



- 行き先：信州上田城址と霧ヶ峰高原
- 実施日：2016年9月29日（木）～30（金）
- コース：「1日目」情報総研 8:00⇒小諸 IC⇒草笛総本店（昼食）⇒小諸城址懐古園⇒北国街道海野宿⇒上田城跡⇒蓼科グランドホテル滝の湯 17:30
「2日目」ホテル 8:15⇒車山肩⇒八島高原⇒おぎのや諏訪店（昼食）⇒諏訪大社上社本宮⇒マンズワイン勝沼ワイナリー⇒情報総研 17:30（解散）
- 参加人数：28名（ご家族3名）

1日目

曇天の中をバスで圏央道～関越自動車道～上信越自動車



道を走行して、昼食は草笛総本店で美味しい蕎麦を堪能した後、小諸城址懐古園⇒北国街道海野宿⇒上田城跡を見学。テレビで放映中の真田丸のストーリーと重ね合わせて見学した。特に徳川軍を2度も破った真田家居城の上田城跡の大手門、石垣、お堀等は歴史の重さを感じさせる特別な佇まいを感じた。

その後訪ねた北国街道海野宿は江戸時代の宿場町の建物と明治以降の養蚕用の蚕室作りの建物が良く調和した静かな町並みで、見所が多く散策が楽しかった。宿泊した蓼科グランドホテルでは9月中旬にリニューアルオープンした野天風呂が最高で、溪流の音も心地よく、日頃の疲れが癒される感じがした。また夜は食事処で、和気あいあいの雰囲気で懐石料理と適度なお酒を楽しんだ。

2日目

8:15にホテルを出発して車山肩、八島湿原を散策した。車山肩に着くころには霧も晴れ、高原を散策した時には、はるか遠くに富士山や南アルプスの山並みが顔を見せ、素晴らしい眺望が我々を楽しませてくれた。昼食は「おぎのや諏訪店」で釜飯をいただく。その後、諏訪大社上社本宮を参拝したが、20メートル、20トンの御柱を20km離れた地から地面を引きずって運んだ跡が御柱の背面に生きしく残っていた。最後にマンズワイン勝沼ワイナリーに立寄ったが、フリーのワインの試飲でほろ酔い加減となり、そのままバスで帰路に就いた。バスの中で綾小路きみまろのビデオを楽しんでいるうちに情報総研には予定より1時間早い17:30に帰着した。



ご参加の皆様、お疲れ様でした。また幹事の皆様お世話になりました。

事務局

会員動向 (H28.5.4～H28.9.22)

■会員動向（敬称略）

- ・会員数：263名
- ・入会者：1名（H28年5月4日～H28年9月22日）
登尾 洋一
- ・物故会員：2名
前崎 博務 吉川 洋
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

■編集後記

今回もデジカメ同好会の協力を得て秋の旅行で実施したフォトコンテストの結果から優秀作品を表紙に掲載させて頂きました。今後も継続したいと考えていますので、皆様の積極的なご協力をお願い致します。

編集責任者：桜井貫智

編集委員：馬場景一 沼田孝治

印刷所：(株) さんこうどう